

こころの玉手箱

仕事を通じて数多くの国に行ったが、特に印象に残っているのがトルコだ。25年ほど前に仕事の合間を縫ってひとりで欧州に行き、その帰りに念願かなってトルコを訪れることができた。イスタンブールの名所を回ったが、ローマとイスラムの文明が共存した美しいモスクに心を奪われた。

両国の交流を深める活動をしている日本・トルコ協会に誘ってくれたのが元伊藤忠商事社長の米倉功さんだ。米倉さんはまだ1度しかトルコに行ったことがない私を「トルコ協会の理事になれ」と有無を言わさず入会させ、2001年に理事のイスに座らされた。そもそも私がトルコに興味を持ったのは恩師の村松祐次先生からお土産話を聞いていたからだ。米倉さんも大学時代、村松ゼミでしかも兄の義治と同期だった。いわば私の「兄弟子」にあたる。在学中に海軍予備学生となり、ここでも兄と同期で航空隊に所属された。兄は不幸にもフィリピンで戦死してしまったが、米倉さんからは「亡き戦友の弟」ということで格別のご厚誼をたまわった。



どことなくイスラムの
雰囲気漂う逸品だ

企業経営でも貴重なアドバイスをいただいた。1993年、経営が落ち込んでいた時に社長に就任。早々に減配を考えたが、米倉さんに相談に行ったら「い

兄弟子に誘われ協会入会

ったん減配すると社内がその程度の利益でいいんだと安住してしまう」と貴重な助言をいただいた。利益を絞り出して配当を維持すると、社内でも何とか頑張ろうという機運が生まれてくれた。

協会の理事は9年ほど続けたが、前任会長の退任に伴い米倉さんから後を継いで欲しいと頼まれ2010年から7年半ほど会長を務めた。現在も特別顧問として文化や経済関係での交流をさせてもらっている。事務局からもらったトルコ製の絵皿はイスラムの雰囲気漂う逸品。会長時代の交流などが思い出され、今でも自宅大切にしている。

日本製粉としても現地のパスタメーカーと提携し、日本人向けに作ったパスタをトルコから輸入している。米倉さんは2015年末に93歳で亡くなられた。訃報が届いたときは私は仕事でトルコに滞在していた。つくづく、トルコには不思議な縁を感じている。